

新興国レポート

RBI (インド準備銀行) 5会合連続金利据え置き

RBIのダス総裁は新型コロナウイルス感染再拡大の影響を注視

- ▶ RBIは4月7日の会合で、5会合連続で政策金利を過去最低の年4.0%で据え置くことを決定。
- ▶ ダス総裁は会見で、足元の新型コロナウイルス感染再拡大が大きな不確実性を与えていると指摘。
- ▶ 同会見や国債買入れプログラムの発表等を受け、4月8日のインド10年国債金利は6.0%近くまで低下(価格上昇)。感染拡大状況等によっては、低下傾向を更に強める可能性も。

(1) 5会合連続で政策金利据え置きを決定

- RBIは7日に開いた金融政策決定会合で、大方の予想通り、政策金利を過去最低の年4.0%で据え置くことを決めました。新型コロナウイルス危機への対応で、2020年3月と5月に合計1.15%引き下げた後は、5会合連続で据え置いています(図表1)。金融政策姿勢については、足元で急拡大しつつある新型コロナウイルスの感染状況(図表2)等を踏まえ、「緩和的」を維持するとしました。

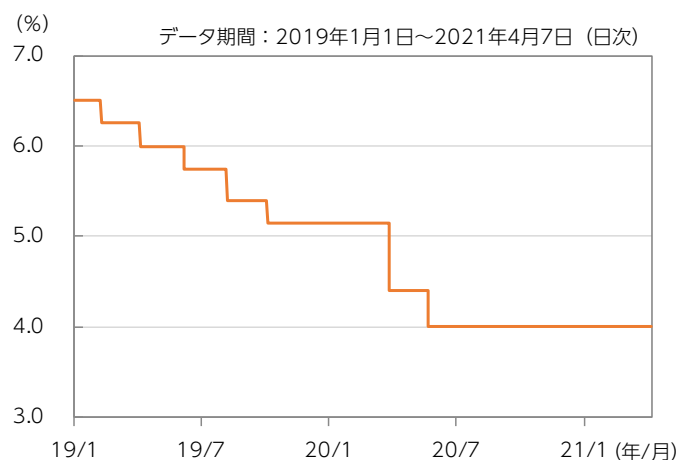
(2) 国債買入れプログラムを発表

- RBIは2021年度(21年4月~22年3月)の実質GDP(国内総生産)成長率(前年度比)見通しを、前回(21年2月)と同様の+10.5%で据え置きました。物価については前回より小幅に上方修正したものの、21年10~12月期にはRBIの政策目標(前年比+2.0%~+6.0%)の中央値+4.0%近くまで低下するとの見通しを維持しました。
- ダス総裁は会合後の会見で、経済活動は正常化しつつあるとの見方を示す一方、足元の新型コロナウイルスの感染再拡大(図表2)が大きな不確実性を与えていると指摘し、各地における活動制限の動き等を注意深く見守る必要があると述べました。またダス総裁は、国債買入れプログラムを発表し、21年4~6月期に1兆インドルピー(約1.5兆円)相当の債券を購入することを明らかにしました。

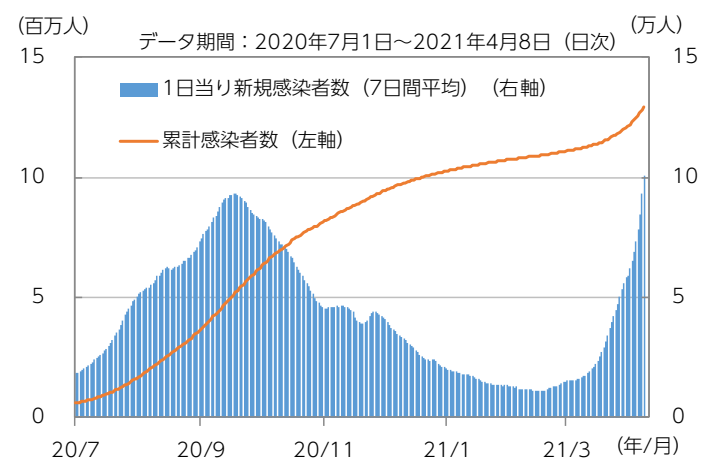
(3) インド10年国債金利の動向と見直し

- 3月末頃の6.2%台を直近ピークに低下傾向を辿っていたインド10年国債金利は、上記ダス総裁の国債買入れプログラムの発表を含む会見内容やRBIの物価見通し等を背景に、4月8日には6.0%近くまで低下(価格上昇)しました(図表3)。新型コロナウイルスの感染拡大ペースが更に加速する場合には昨年末水準近辺まで低下することも考えられます。

図表1：インド政策金利の推移



図表2：インド新型コロナウイルス感染状況



図表3：インド10年国債金利の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>